

2024（令和6）年度 自己点検・評価報告書

名古屋経済大学
全学教育推進センター

○学内からの視点

1. プログラムの履修・修得状況

本学における「名古屋経済大学データサイエンス教育プログラム（経営学部）」については、対象科目から必修12単位を含む16単位以上を修得することにより、2023年度入学生から履修することができるプログラムとなっている。本プログラムは事前申込制となっており、2024（令和6）年度履修者数は9名となっている。

全学教育推進センターが中心となり、学務システムやLMS（学習管理システム）を通じて、履修者数、出席回数、成績状況などで、プログラムの履修・修得状況を把握している。把握したデータを基に、科目担当教員間で共有しながら総合的な現状分析を実施し、次年度に向けた授業内容の改善に繋げている。

履修率は低い状況にあるため、学生にプログラムの意義や目的について周知徹底を図り、履修率を向上させていく取り組みを実施していく必要がある。

2. 学修成果

本プログラムを構成する科目については、LMS（学習管理システム）への課題提出があり、そのプログラムの履修・修得状況をこまめに把握できるようになっている。さらに、成績評価や授業評価アンケートを実施しており、「授業内容はわかりやすかったと思いますか」という項目を通じて、学生の学習成果を確認することができる。授業評価アンケートの分析結果については、FD委員会と共有し、問題点があれば次年度以降の改善に繋げていくことができる。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

学生の内容の理解度は、教育の内容や方法を改善・向上させ、自己点検や評価を行うために全学部にFD委員会によるFD委員が委嘱されている。FD委員会では、本プログラムを構成する科目に対し授業評価アンケートを実施し、その結果を分析することにより、学生の内容の理解度の把握を行っている。

授業評価アンケートの結果を分析したところ高評価であったため、学生の内容の理解度も高いことが推察されるが、科目担当教員間で内容の改善・検討を行っていくことにより、理解度を一層高めていくことができる。

4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本学では、授業評価アンケートを通じて、後輩等他の学生への推奨度を把握している。把握した推奨度を基に、本プログラムをガイダンスやオリエンテーションで紹介することや、ホームページやメール、チラシ等で周知することにより、本プログラムを推奨している。

5. 全学的な履修者数、履修向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは現在経営学部のみで実施しているが、2025年（令和7）年度には、大学等全体のプログラムに移行することを計画している。これにより、履修対象者が拡大するため、履修率の向上が見込まれる。また、学生の履修状況や授業評価アンケートの結果などを踏まえ、プログラム対象科目の見直しを行うなど、プログラムの充実化を継続的に行っていく。

また、在学生の履修者向上に向けた取り組みだけでなく、法人内部高等学校や近隣高等学校を中心とした模擬授業などで本プログラムを紹介し、入学前の段階から学生への周知を強化していく。

○学外からの視点

1. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること
本プログラムでは、学生にとって身近な事例やトレンドなどを意識して、実践的な例題を多く取り入れ、学生が興味・関心を抱くようなテーマを設定して講義を行っている。また、授業評価アンケートや履修者に対しヒアリングを通じて、継続的な見直しを行っている。また、なるべくコンピュータと身近なデータセットを用いながら、実践的な能力が身につくようになっている。
2. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること
文系学生でも AI・データサイエンス関連分野に興味を持てるよう、基礎を重視した「分かりやすい」授業を実施している。また、学生へ聞き取りを行い、学生のレベルにあった授業であるかを把握しながら、科目担当教員間で共有し、見直し・改善する体制が整っている。
理解度に問題がありそうな学生については、LMS などを使用しながら、個別にフォローしている。それにより、本プログラム全体の内容・水準を落とすことなく適正に運営がされている。